

## 14 良寛『法華讃』について

【全4回】／開催方法：現地

たけむらまき お  
竹村牧男

東洋大学名誉教授



受講料 会員料金：¥9,000 早割価格：¥8,000(納入期限：10月17日)

【日程・時間】【全4回】 10月23日(月) 13:20~14:50・15:00~16:30  
10月24日(火) 10:30~12:00・13:20~14:50

■受講に必要なもの

禅宗は、不立文字・教外別伝を標榜しています。しかし道元はこの立場を否定し、特に『法華経』を大変、尊重しました。良寛は、この立場を受ついたのでしょう、やはり『法華経』をととても重視しました。というのも、良寛には、『法華讃』という作品があるからです。それは、『法華経』二十八品すべてに対し、それぞれの内容を表す漢詩の讃を、全部で百首、収載しています。そこには、禅の悟りの観点からの、独自の『法華経』解釈が披瀝されています。

本講では、その讃のいくつかを紹介しつつ、良寛の禅思想を味わいたいと思います。四回のシリーズとし、第一回は、禅と『法華経』の関係、良寛の禅修行、道元と良寛などについて、お話します。第二回は、『法華経』の一乗思想や諸法実相の思想等に対する良寛の見方について、お話します。第三回は、『法華経』が説く、観音菩薩や常不軽菩薩についての良寛の思いについてお話します。なお第四回は、僭越ですが、私の『法華経』理解についてお話させていただきたいと思います。

この講座によって、禅と教(経典等)の関係、道元・良寛における『法華経』の位置、良寛の仏教学、良寛の禅思想などについて知識を広げ、『法華経』の思想の一面や禅仏教の独自性とその意義について理解を深めていただけましたら幸甚です。

### 【参考書】

『良寛「法華讃」』 著者：竹村牧男 出版社：春秋社 出版年：2019